

(水)

祝福の祈り

コリントの信徒への手紙Ⅱ一三章一〜13節

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にありますように。(13)

パウロの手紙はどれも、主イエスの恵みが受信人に豊かに注がれることを求める祈りをもって終わります。中でもこのコリント第二の手紙の祈りは、父と子と聖霊の三位一体の神の名によって祈られるただ一つの祈りです。この聖句は、礼拝の最後の「祝福・派遣」に用いられます。これを祈りの言葉とする場合、全会衆の上に神の祝福が豊かにあるようにと祈ることになりますが、聞かれるかどうか分からないというものではありません。それゆえ、これは祝福の宣言であるとも言われます。牧師の口を通して、神が確かな祝福を告げておられるのです。この一年も終わりを告げ、新しい年に向かって進もうとしています。一年の終わりと始まりにあたり、この言葉をもって皆さんを送り出します。「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にありますように」。